

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2019年12月分)

2020年1月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[ボシュニャク系3党, 国, BH連邦, 各カントンにおける連立形成で合意\(13日\)](#)

●[新閣僚評議会\(中央政府\)の発足\(23日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[RS国民議会, 「\(国防\)改革計画」につき特別会合を開催\(23日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[PIC・SB政務局長会合の開催\(3~4日\)](#)

●[欧州理事会, 本年5月の欧州委員会意見書に関する結論文書を採択\(10日\)](#)

●[大統領評議会, 「\(国防\)改革計画」をNATOに提出\(23日\)](#)

(2) 二国間関係

●[BH政府, ノーベル文学賞授与式への代表者出席を見送り\(10日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に基づくサラエボ市内小学校修復計画の引渡式典\(12日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[ウグリエビツ火力発電所の排煙脱硫装置の試運転が開始\(5日\)](#)

●[BHへの直接投資額, 増加傾向を記録\(27日\)](#)

(注: 以下は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●ボシュニャク系3党, 国, BH連邦, 各カントンにおける連立形成で合意(13日)

ボシュニャク系国政与党のSDA, 民主主義戦線(DF), よりよき未来のための同盟(SBB)の3党は, 国, BH連邦, 各カントンにおける連立形成につき合意。同合意のなかで3党は, BH連邦における連立協議の早期再開をクロアチア系与党HDZに対して求めるとともに, サラエボ・カントンにおいて同3党連立の新政権を発足する方針を決定した。これにより, 中道左派政党を中心とする6党連立の現政権は退陣に追い込まれる見通し。

●新閣僚評議会(中央政府)の発足(23日)

BH議会下院は, テゲルティヤ新閣僚評議会議長候補(セルビア系, SNSD所属)の承認(5日)に続き, 人権・難民大臣を除く9閣僚候補に対する承認手続きを完了。これにより, 2018年10月の総選挙から1年以上を経て新閣僚評議会が発足。なお人権・難民大臣については, BH議会下院委員会による承認手続きが23日に間に合わず, 後日追加で指名・承認が行われる見通し。現時点での新閣僚の顔ぶれは以下の通り。

議長(首相)	ゾラン・テゲルティヤ(SNSD)
副首相兼外務大臣	ビセラ・トゥルコビッチ(SDA)
副首相兼財務大臣	ビェコスラブ・ベバンダ(HDZ)
対外貿易・経済関係大臣	スタシャ・コシャラツ(SNSD)

運輸・通信大臣	ボイン・ミトロビッチ(SNSD)
内務大臣	アンキツァ・グデリエビッチ(HDZ)
法務大臣	ヨスイプ・グルベシヤ(HDZ)
治安大臣	ファフルディン・ラドンチッチ(SBB)
国防大臣	スイフェト・ポジッチ(DF)
人権・難民大臣	未定

* SNSD: 独立社会民主主義者同盟(セルビア系与党), SDA: 民主行動党(ボシュニャク系与党第一党), DF: 民主主義戦線(同与党第二党), SBB: よりよき未来のための同盟(同与党第三党), HDZ: クロアチア民主同盟(クロアチア系与党),

●ブチャク移民・難民滞在施設が閉鎖(11日)

BH北西部のビハチ市(BH連邦)にある移民・難民向け滞在施設, ブチャク・キャンプが閉鎖され, 同施設に滞在していた約750名がサラエボ郊外の施設に移送された。今回のブチャク・キャンプ閉鎖をめぐるのは, かねてよりUNHCRをはじめとする国際社会から, 同施設の住居環境が必要な基準を満たしていないなどの指摘がなされ, 同キャンプ閉鎖の要請が高まっていた。

●BH出身のISIL元兵士7人が帰還(19日)

BH出身のISIL元兵士7人とその家族18人が, シリアから空路BHに帰還。元兵士7人のうち, インターポールにより国際指名手配の対象とされていた5人については, サラエボ空港への到着後直ちにBH検察庁の拘置所に移送された。また, 残る2人は国家捜査・保護庁(SIPA)に移送された。

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

● BH連邦議会、BH連邦の2020年予算を承認(18, 19日)

BH連邦議会の上下両院は、同エンティティの2020年予算案を承認。同予算額は、約49億5,400万KM(約25億3,293万ユーロ)。

イ. スルプスカ共和国(RS)

● RS国民議会、RSの2020年予算を承認(18日)

RS国民議会は、同エンティティの2020年予算案を承認。同予算額は、約34億2,500万KM(約17億5,117万ユーロ)。

● RS国民議会、「(国防)改革計画」につき特別会合を開催(23日)

RS国民議会は、大統領評議会がNATOへ提出することで合意した「(国防)改革計画」につき特別会合を開催。ドディック大統領評議会セルビア系メンバー(与党SNSD党首)が同計画への理解を求めたのに対し、セルビア民主党(SDS, 野党第一党)のシャロビッチ党首は、同計画の提出はBHのNATO加盟行動計画(MAP)発動に繋がるとして反対。その後、反発するSDSおよび民主進歩党(PDP)が退席する中、連立与党は同計画を支持する内容の決議を賛成多数で採択した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

● PIC・SB政務局長会合の開催(3~4日)

デイトン和平合意の履行支援を行う和平履

行評議会(PIC・SB)は、サラエボにおいてPIC・SB政務局長会合を開催。同会合後にまとめられた共同声明(除ロシア)では、先月19日の大統領評議会によるテゲルティヤ新閣僚評議会議長候補の指名、およびNATOに対する「(国防)改革計画」提出に関する合意を歓迎しつつ、連立与党に対して早期の政権発足を要請した。

● 欧州理事会、本年5月の欧州委員会意見書に関する結論文書を採択(10日)

欧州理事会は、欧州委員会が本年5月に理事会に提出した、BHに対するEU加盟候補国の地位付与に関する意見書につき結論文書を採択。理事会は委員会意見書の内容を歓迎するとともに、BH政府に対して、同意見書で示された14の改革項目への早期の取組開始を要請した。

● 大統領評議会、「(国防)改革計画」をNATOに提出(23日)

大統領評議会は、BH議会下院による新閣僚評議会の承認プロセスが23日に完了したことを受け、同日夕、同国のNATO代表部を通じてベルギー・ブリュッセルのNATO本部に対し「(国防)改革計画」を提出。同計画については、大統領評議会が年次国家計画(ANP)に替わる新たな文書として、NATOへ提出することで先月19日に合意していた。

(2) 二国間関係

● BH・スロベニア首脳会談(3~4日)

BH大統領評議会の3メンバーは、スロベニアの首都リュブリャナにおいて同国のパホル大統領との会談を実施。両国の首脳は、BHをはじめとする西バルカン地域諸国のEU加

盟プロセス、BHに流入する移民・難民問題、およびBH・スロベニアの二国間経済関係などにつき話し合った。

●BH・アフガニスタン首脳会談(10日)

コムシッチ大統領評議会議長(元首、クロアチア系)およびジャフェロビッチ大統領評議会ボシュニャク系メンバーは、アフガニスタンの首都カブールにおいて同国のガニ大統領との会談を実施。ガニ大統領は、同国に展開するNATO部隊へのBH軍の派兵に対する謝意を述べた。

●BH政府、ノーベル文学賞授与式への代表者出席を見送り(10日)

BH政府は、ペーター・ハントケ氏(奥人)に対する2019年ノーベル文学賞授与式への代表者出席を見送り。また、授与式当日にはスウェーデンのストックホルム市内において、BH国籍保有者を中心とする数百人が同氏へのノーベル賞授与に対する抗議デモを開催した。ハントケ氏への同賞授与をめぐることは、同氏が過去にスレブレニツァ・ジェノサイドの事実を否定する内容の発言をしていたとして、BH国内の一部で反発が強まっていた。

(3)日・BH関係

●平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に基づくサラエボ市内小学校修復計画の引渡式典(12日)

平成30年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「サラエボ市サブリナ小学校修復計画」の引渡式が行われ、坂本秀之駐BH日本国大使およびV4(チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア)各国の

大使らが出席。同計画は、「V4+日本」の西バルカン地域協力の一環としてサラエボ市内の小学校の改修を行うもので、日本政府は老朽化した校舎の窓などの修復費用を供与した。



(写真:日本の支援に対する謝意を記したプレート)

3. 経済

(1)経済政策・公共事業

●サラエボ、大気汚染が深刻化(7日)

スイスに本部がある大気汚染測定機関Air Visualによれば、7日、サラエボ市内で大気汚染の程度を示す空気質指数(Air Quality Index, 数値が大きいほど大気汚染が深刻。)が335となり世界ワースト2位、翌8日も187で世界ワースト7位を記録。両日ともに、対象都市中最も大気がきれいな都市は神戸で、その数値は5であった。BHでは近年、サラエボをはじめとする都市部において冬期の大気汚染が深刻化している。

●ウグリエビツク火力発電所の排煙脱硫装置の試運転が開始(5日)

スルプスカ共和国(RS)のウグリエビツク火力発電所は、日本政府の円借款により建設された同発電所の排煙脱硫装置の試運転を開始。今回の排煙脱硫装置設置計画は、南東欧地域におけるエネルギー関連施設で過去最大の環境関連事業であり、これにより同発

電所の環境基準は大きく改善する見込み。なお、ウグリエビック火力発電所は、RSの電力全体の約3分の1を供給している。

●EU, 高速道路欧州回廊5C線のトンネル建設に資金援助(17日)

BH政府と欧州投資銀行(European Investment Bank)は、BHの高速道路欧州回廊5C線内のトンネル敷設工事につき、投資銀行がBHに対して1,900万ユーロ規模の資金援助を実施することで合意。サットラーEU大使は記者団に対し、EUは本件建設事業につき既に2億ユーロ規模の資金供与の方針をBH政府に約束しており、引き続き5C線建設を全面的にサポートしていく旨述べた。

●BHへの直接投資額, 増加傾向を記録(27日)

BH中央銀行は、2019年第1～3四半期(1～9月)の外国からの対BH直接投資額が約8億6,100万KM(約4億4,000万ユーロ)を記録したと発表。この数字は、既に2018年の1年間に記録された直接投資額(約8億KM)を上回っており、昨年同期(18年1～9月)比での伸び率はプラスの29%である。BH外国投資促進庁によれば、このままのペースで投資額が伸びれば、19年末までの投資額が10億KM(約5億1,100万ユーロ)を突破する可能性もある。